

品川支部

平成29年2月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel 3442-7075

2月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

地域協力「こども食堂」 都南分教会の取り組み

現在、この飽食な時代に日本の17歳以下の子どもの16.3%、6人に1人までに、子どもの貧困化が進んでいると言われています。そんな子どもたちに一食でもおなかいっぱい食べてもらいたい。少しでも一緒に楽しく過ごしてもらいたいと、3～4年前から始まった地域ボランティアに都南さんが新たな形で加わる事になりました。

都南さんの、取り組みは、月に1回～2回、困窮家庭や共働き家庭で一人ぼっちでの食事になりがちな親子に、都南の食堂をお借りして「となん こども食堂」を開設し楽しい暖かい食事を提供する事です。メニューも簡単にし、こども100円おとな300円と気軽に利用できるように致しました。又、子供だけでなく、一人暮らしをしているおじいちゃんやおばあちゃんにも一緒に楽しく食事をして頂けますよう声掛けしたところ、初回でも40人を超える方が参加して喜んで頂きました。



☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

二月九日(木)午後六時～(都南にて)

・教区ひのきしん(二月五日(日))

当番は日本橋組です宜しくお願ひします

・神名流し

二月一日(水)午前十時～

場所 大井西ロータリー

・在宅センターひのきしん

二月二十七日(月)午前九時半～

・青年会活動

毎日実働を掲げ当支部は十一日が活動日

として行っています。参加の程お願い致します

・支部例会二月二十八日(二頁参照)

☆教務支庁からのお知らせ

・東京オリンピック・パラリンピック アンケート

このイベントに総勢十八万人の、ボランティアが必要とされていますが、教区でも大会から要請を頂いた時にすぐに対応できますよう。おおよその人材把握を行う事になりました。競技関係者の方、議員の方等既に係わっている方、外国語のできる方以外にも、通常ひのきしんに参加して頂けます方等のアンケートを各教会に内容と用紙を置いてお願いしています。第一回目といたしましては二月十九日迄です。所属教会が遠方の方はお近くの教会までご協力お願い致します

【時報手配り者募集】

毎月、時報の手配りに付きまして教区では配達にひのきしんの方が手配りをして頂いている割合を発表しております。

我が品川支部はほぼ、全部と言って良い95%以上をカバーさせて頂いております。しかしながらこのところ、時間の経過とともに「手配りひのきしん」をして頂いております方の高齢化と転出で人数が不足してまいりました。一人の方の負担が大きくなって参りましたので改めまして、お手伝いいただけるひのきしん者を募集致します。ご協力いただけます方は下記支部栗原までご連絡お願い致します。

電話 03-3442-7075
メール sngwsb@yahoo.co.jp

拠点教会	5日号	12日号	19日号	26日号
日本橋	手配り	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り	直 送
都 南	手配り	手配り	手配り	直 送
三ツ木	手配り	手配り	手配り	直 送
水豊田	手配り	手配り	手配り	直 送

時報手配り二月予定

教会紹介

大平町分教会元一日



教会の元一日は、それは大正二年、三代会長三浦みりつが二十三歳で宮城県から上京し結婚する以前の事です。明治の後期、現在の会長三浦政志の義父で叔父に当たる、三浦忠之助の肺病から道がつき、大平町の信仰が始まります。

忠之助が、現在の大崎駅辺りにあった鉄道省の工機部で機関車の運転手をしていた頃の事、肺病を患い、病んでいた時にお道の話聞かせて頂いたそうです。すると「こんな良い話はない」と言っすぐに仕事を辞めて熱心に信仰に入ってしまったそうです。宣教所は、大正十三年に設立されましたが、その時には、忠之助は住んでいた二葉町の借家を教会に改造し提供いたしました。初代会長には忠之助に会長の資格がなかったため、上級の榎本裳止が就任致しました。

当時、後に三代会長になる忠之助の妻三浦みりつは、会長さんが来るときは家から逃げていたり、毎日泣いていたという程、天理教を嫌っていたそうです。教会の歴史は、初代会長榎本裳止（おもと）は、上級教会の役員だった方ですが、自身は娘の身上から、大光分教会初代よりお手引き頂いた方です。御所づとめしていただけた家で奉公していただけに、学業にすぐれ、折り目正しく優しく思いやりのあった方だったそうです。信仰も熱心で大光宣教所創設と同時に入り込み、その後、忠之助等の信仰で支講のお許しを頂いた現教会の前身が、大正十三年に北大教会大崎町分教会、大森町支教会部内の大平町宣教所として設立が許されるにあたり、初代会長に選任されました。二代会長の松井寿美は、生まれ代々時の逸話が大森町大教会の元一日に大きな意味を持つ方なのですが、昭和十五年から後任の会長が決まるまでの二年余りをお勤め頂きました。

昭和十八年、三浦みりつはあんなに嫌がっていた天理教ではありましたが、ご主人とその間に授かった男女二人の子供に次々と出直され、気持ちを変え、大正十三年には別科に入科、ご主人忠之助の遺志を受け、時を待っていた二代会長の松井が辞任をすると共に、三代会長に就任しました。教会の場所、今の区役所あたりから始まり、下神明（当時タイヘイ町）等、戦災により数度にわたる移転と強制疎開を経験し、現在の地に移ってきた訳です。信仰も深まり、信者の数も増えていきましたが、後継者が無いことから、昭和二十八年、当時仙台大教会所属であった忠之助の甥にあたる宮城の松島在住の政志が上京し養子になりました。その後、本芝の方の紹介で本荘（当時は分教会）所屬で芝浦在住の沖電気系会社員の娘であった、和子と結婚。三女が授かり今に至ります。昭和五十四年に現会長の政志が会長就任となつてから三十八年の今年二月、八十六歳を迎えます。



大平町分教会長
三浦 政志

後継者がまだおらず、夫婦とも足腰が大分不自由になってきていますので支部の例会等の協力が出来ず申し訳ありませんが、私自身はお道の上、孫の顔を見ながら飲んだりお話ししたり、陽気にお道を通らさせて頂いております。

【編集後記】

この記事は、大平町さんから頂いた経歴と、二度の訪問で伺った録音の起こしから編集されたものです。最近は何となく人にも少なく、出かけられないので、飲みがてら話に来てくださいます。とても明るく協力いただきました。有難うございます。

品川支部例会

平成29年2月28日 (火)
11時開始

場所 桜京分教会

(品川区西品川1丁目16-5)

内容 座りづとめ よろづよ八首 2下目

東京教区、支部連絡事項

当該辰巳教会長挨拶

昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも（白足袋ハッピー着用）

